

総務委員会視察報告書

【視察日】 令和7年1月16日（木）～1月17日（金）

【視察委員】 山川智己委員長、大石保幸副委員長、さとうまりこ委員、寺田亜記子委員
増田克彦委員、多田晃委員、山根一委員

【視察先】 （1）兵庫県西宮市 （2）岐阜県各務原市

調査事項 令和7年1月16日（木） 兵庫県西宮市 スポーツを核とした甲子園地域の活性化事業について

①市の概要

【人口（令和7年1月現在）：482,151人】【面積：100.18km²】

西宮市は、兵庫県南東部に位置し、神戸市、姫路市に次ぐ都市である。今回視察させていただいた阪神甲子園球場をはじめ、「福男選び」でも有名な西宮神社など知名度の高い施設等を有するほか、多数の酒蔵が点在し、日本を代表する酒所の一つとしても名高いまちである。

②取り組みの経緯・内容

西宮市も全国的な流れと同じく、将来的な人口の減少が予想されており、特に甲子園が所在する鳴尾地域はその傾向が顕著とされている。また、野球シーズン以外の10月～12月は特に閑散としているという課題があることから、年間を通じてスポーツ・アウトドアを楽しめ、甲子園エリアの交流人口増加と地域活性化を図る事業を推進するための協議会を設置した。

具体的には、PR 媒体を活用した情報発信や、にぎわい創出イベントの実施、プラットフォーム事業の展開を柱として、官民連携した取り組みを行っている。

③課題

甲子園という知名度が抜群な半面、西宮市にあるということがいまいち浸透していないため、そのことに対する周知が必要である。野球以外のスポーツとの連携もさらに強化し、相乗効果を図っていくことも考えられていた。

企業誘致や雇用創出につなげられないかという点では、甲子園施設や付随する事業等、母体が阪神電鉄という企業自体なため、そうした取り組みをすることは難しいとのことである。ただ、コラボ事業等、様々な他企業や団体、法人と連携・支援を行うことはできると思われる。また、交流人口を定住人口につなげられるかも重要である。

国からの地方創生交付金が終了するが、事業の継続を望む声が多いと感じているため、財源の確保もこれから必要になってくる。

④本市に反映できると思われる点・意見

甲子園という存在は全国トップクラスの知名度であり、事業規模も本市とは単純に比較することはできないが、事業者交流会やビジネスアカデミーといったプラットフォーム事業は官民連携した取り組みの基礎となる部分として大いに参考にできる取り組みと感じた。

また、甲子園や大規模駐車場を活用したイベントの創出は、子どもから大人まで多くの人が楽しむことができるものとして賑わいが期待できる。トレセン構想を検討するうえでも、非常に重要なファクターだと考える。野球の聖地から学ぶアニメ・映画の聖地巡礼を、蹴球都市ふじえだでも魅力的な聖地化ができればおもしろい。



調査事項 令和7年1月17日（金） 岐阜県各務原市 新庁舎建設事業について

① 市の概要

【人口（令和7年1月現在）：144,195人】【面積：87.81km²】

各務原市は、濃尾平野の北部に位置し、岐阜市、大垣市に次ぐ第3の都市である。かつては中山道の宿場町として栄え、その後航空自衛隊岐阜基地が所在することから、関連する工業都市として発展している。航空宇宙博物館は全国的にも有名である。



② 取り組みの経緯・内容

旧庁舎が建設されてから50年近くが経ち、老朽化・耐震性・バリアフリー等多くの課題が生じたことから、平成26年に基本構想を立ち上げ、建て替えの決定をした。

その後、新庁舎基本計画が策定され、市民ワークショップや説明会、パブリックコメント、ユニバーサルデザイン意見交換会を経た実施設計のもと工事が開始され、4年後の令和5年11月に全面オープンとなった。

岐阜県産の木材を多く使用し、至る所に木の温かみを感じられる内装となっている。市民が多く来庁する部署は通路幅が広く確保されていることをはじめ、ベビーカー等を使用したまま着座ができる思いやるスペースが設置されているなど、利用者への配慮もなされている。

環境に配慮したZEB庁舎として、様々な環境負荷低減手法・省エネルギー技術を採用し、一次エネルギー消費量を50%以上削減している。また、隣接する航空基地の騒音を遮断する設備が採られ、その点、国からの補助金を受けているということであった。

③ 課題

危機管理を担当する階層では、地震や風水害等の大規模災害時に拠点本部となるよう想定して建設されていたが、実際の場面を想定してどれだけ活用していただけるか。

議場については、まだタブレットを活用していない議会において、今後どのようにネットワークを配置していくか、議場システムとリンクさせていくための機材・装置等を加えていくかが検討される。

議場の床空調や会議スペース等、完成してから課題点が見つかることもあるため、設計時にどこまで予見できるかということも非常に重要である。

④ 本市に反映できると思われる点・意見

各務原市の新庁舎は、広い土地を取得して建設されたものではなく、平米数はアップしたものの庁舎自体も大きすぎないよう意識されていた。人口減少や来庁しなくてもよいという観点からは非常に重要なことである。

環境に配慮して基準を達成することにより環境省から補助金を受けていることは、環境の面からはもちろんのこと、近年の建設費高騰に対する一つの対策とも考えられる。

建設工事に入るまでの設計段階では、広く市民の声を拾い、市民が活用しやすい庁舎にしていくという考えが強く感じ取れた。屋根付きのおもいやり駐車場やベビーカーなどのおもいやりスペースが印象的であり、これからの新庁舎建設には、バリアフリーやユニバーサルデザインを含め、より必要とする方のためにどのような工夫を施していくかをさらに検討していかなくてはならない。